

## - 株式会社レザック本社工場見学と柳本代表取締役の講話 -



柳本代表が現場説明

2003年以来継続しているATAC社長懇話会を本年6月8日にレザックの本社工場（八尾市若林町）で開催しました。

この会は中小企業の経営者の相互の交流にATACがお手伝いできればと考えて始めたもので、今回は企業トップ16名の参加を得ました。

工場見学に続いて柳本忠二代表取締役の講話を伺った後、交流会を催しました。

### レザック本社工場の見学

当社は印刷紙器やダンボールなどに使われる抜き型機の製造を主業務としており、部品類はほとんど自家製で、システム全てに共通のCADシステムが使われているのが特徴です。社員65名、年商12億円の企業です。

#### <切断機>

ベニヤ板用のレーザー切断機、プラスチック板切り抜き用のミーリング機、ゴム板・スポンジ等の切断で焦げた臭いがつかないウォータージェット切断機、ボール紙を切り抜いて曲げるための溝押し加工を行うカッティングプロッターなど、多くの種類の切断機が見られました。

#### <部品加工>

放電加工機、NC成形研削盤、精密旋盤、マシニングセンターなど、部品に応じた加工機が使われている。また、加工機の精度を1/10,000mmにして部品精度を1/1,000mmにすれば1/100mmの精度の製品が保証できるとのポリシーや、抜き型用の刃を曲げて切断する自家開発機など感心させられました。

さらに、地域連携コンソシアムで導入したフェムト秒レーザー（ $10^{-15}$ sのパルスレーザー）で仕上げ後の刃の先端の微小なカエリを除去すると刃物寿命が著しく延びることなど、深い気配りを感じさせられました。

### 柳本代表取締役の講話

1時間余にわたって熱弁を振るわれました

が、その中から幾つかピックアップします。

#### <創業の頃>

昭和39年、19歳で従業員40名の菱屋木型製作所を設立した。

木型に刃を挿し込む溝を糸鋸で切り抜く職人芸であったが、従業員が技術を覚えると独立して去ってしまうという苦い経験をした。

#### <レーザーの導入>

昭和54年当時、勃興期の自動車ではシートカバーが押し型で作られていたが、来日した米国人の講演でレーザーで木の抜き型を作っていることを知った。早速友人と米国へ見学に行ったが、小規模のレーザーで感心しなかった。一方、西独でもレーザーを使用していることを知り、出かけていった。500W水冷式レーザーで、気に入って購入し、55年6月に納品された。ドイツの低温乾燥した気候と違い、日本では夏場に結露するというトラブルがあったが、意地で対策を検討し、モノにした。

#### <レーザーカッティングシステムの開発>

レーザーによる切断は調整に長時間かかるが、実際の切断作業はアツと言う間に終わり、マッチングしない。

そこで、昭和57年CADシステムを導入して「レーザーマスター」を完成した。また、レーザーで溝加工してできた溝に入れる刃の加工、刃による打ち抜きと順々にCADシステム化を行い、全プロセスをシステム化できた。

#### <トップとしての姿勢など>

技術の基本は全て自分で構築して特許出願している（登録44件、出願中5件など）。この姿勢は意地でも部下には渡さない。

「精度が高い」とは再現性があることと捉えらると、八尾で一番精度の高いものを作っているとの自負がある。すでに装置を2,000基出荷しているが、修理の義務はメンテナンスフリーで回避している。万一不調が起これば有償で部品交換する。

来年創業50周年になるので「50年史」出版を計画している。また、現在68歳であるがトップの座を息子に譲っていきたい。

#### <天皇皇后両陛下ご来社>

平成17年8月に両陛下のご視察を賜った。

当日までご来社のスケジュールは秘密にしたため近隣の人たちに大変恨まれたこと、ご視察中、妻と娘がお茶を点てて召し上がっていただいたこと、お帰りの際には英国留学の経験のある二人の息子とお見送りしたことなど、貴重な思い出です。

#### 交流会

交流会では柳本代表取締役と企業トップ、企業トップ同士、あるいはATACメンバーとの間で懇談に花が咲き、時間の過ぎるのを忘れるほどであった。収穫のある話が交わされたものと推察します。（明石、小山記）